

サプライチェーンや地域と連携し、環境活動をさらに加速させます。



生産技術 センター長
今枝 勝行

私たちの生活や事業活動では、さまざまな資源や化学物質、エネルギーを利用し、温室効果ガスや廃棄物などを排出しています。このような人の活動は、地球環境に負荷を与えてしまっていますが、その影響の大きさは、専門家の方々の研究により詳細に分かるようになり、想像以上に大きく、緊急を要するものだということが明らかになってきました。

この大きな問題を乗り越えていくためには、企業の役割は大きく、責任をもって、そして率先して取り組む必要があります。ただ、環境への取り組みは競争ではありません。自分たちだけが達成しても意味がありませんし、自分たちだけで達成で

きるものでもありません。

東海理化では、気候変動に対する対応として「カーボンニュートラル戦略2030」を策定し、取り組みの対象をサプライチェーン排出量に拡大しています。そして、目標を達成するために、お客さまや仕入先さま、業界、異業種、地域と積極的に連携・交流し、協力して活動を推進していきたいと考えています。これは、生物多様性保全やサーキュラーエコノミーの活動も同じです。

地球環境保全は、持続可能な社会を実現するための基盤となる最重要事項として、手遅れにならないよう、さらに活動を加速させていきます。

環境方針

東海理化グループでは、環境スローガン「人とクルマの調和をめざし、企業活動に伴う環境負荷の低減を図ります」のもと、環境方針を定めて環境への取り組みを進めています。

1 経営理念、社員行動指針に基づき、環境への取り組みを進めます。

1 主な取り組み項目 地球温暖化防止、省資源・リサイクル・廃棄物低減、化学物質管理、新環境技術の積極的な導入・開発、ライフサイクルアセスメントの推進、生物多様性保全など

2 法・地域や顧客との約束を守り、さらに自主目標を定め、環境汚染の未然防止を進めます。

3 環境委員会を設置し、継続的な環境改善活動を展開します。

中長期目標

2050年までにCO₂排出量を実質ゼロにする目標を設定し、そのマイルストーンとして「カーボンニュートラル戦略2030」を策定しました。製品、生産、調達、物流の4つの戦略を軸にライフサイクル全体での活動を進めています。

| | 実施事項 | 主要 KPI |
|------|--|--|
| 製品戦略 | ・LCAシステムの構築と運用 ・低CO ₂ 設計 ・化石資源プラスチックの代替推進 | 製品CO ₂ '40年 ▲30% '30年 ▲10% |
| 生産戦略 | ・温室効果ガス代替化 ・省エネ ・再エネ/新エネ | 工場CO ₂ '30年 ▲60% 再エネ率 '30年 25% |
| 調達戦略 | ・仕入先さまのCO ₂ 低減 -改善横断によるCO ₂ 低減 -各戦略における仕入先さま連携 | 協力会社CO ₂ '30年 ▲20% |
| 物流戦略 | ・物流の効率化 ・梱包資材の材質変更 ・トラックの燃料変更 | 環境対応車比率 '30年 50% |

TOPICS

トヨタ自動車株式会社より「環境推進優秀賞」を受賞

東海理化では、カーボンニュートラルに向けグループ一丸となって各スコープでの取り組みを進めており、全方位で活動ができていると評価いただきました。また、仕入先さまとの連携活動の中で、自社のみでの再エネ導入が難しいという声をいただき、そこで取り組んだ仕入先さまとのオフサイト太陽光発電電力共同調達の活動が、仕入先さまの声に寄り添った従来にない取り組みとして高く評価いただきました。これらの取り組みによりトヨタ自動車株式会社より「環境推進優秀賞」を受賞しました。



第7次環境取り組みプラン(2021~2025年)

持続可能な社会の実現に貢献するため、「脱炭素社会の構築」「循環型社会の構築」「自然共生社会の構築」の3つの柱で取り組みを推進しています。

各年度の目標は、第7次プランの最終年度である2025年度目標から、バックキャストिंगで設定しており、最終目標の達成に向け、計画的に活動を進めています。

2022年度は、再エネのグローバル全体での導入拡大など、各工場や海外拠点との連携活動により、全ての項目を達成することができました。



[第7次環境取り組みプラン実績(2022年度)]

| | 2022年度活動実績 | 2022年度目標 | 2022年度実績 | 評価 | |
|--|---------------------------------------|--|---------------------------------------|---------------------------------------|---|
| 脱炭素社会の構築 | 製品の軽量化・小型化設計の推進 | ● 小型化・軽量化推進 ● 主要製品のLCA(ライフサイクルアセスメント)評価 | — | — | ○ |
| | CO ₂ 排出量の低減 | ● 省エネ分科会による生産設備の改善 ● 省エネ改善事例の水平展開 ● 啓発活動(展示会、優秀事例表彰) ● E-ラーニングを活用した省エネ教育の実施 ● 再生可能エネルギーの導入 | 東海理化グループ 112,806 t-CO ₂ | 東海理化グループ 107,442 t-CO ₂ | ○ |
| | | 東海理化 45,846 t-CO ₂ | 東海理化 38,453 t-CO ₂ | ○ | |
| | 温室効果ガスの低減 | ● マグネシウム鋳造工程の防燃ガス(SF ₆)代替化推進 | — | — | ○ |
| 物流活動における輸送効率の追求とCO ₂ 排出量の低減 | ● ルート見直しによる輸送効率化 ● 荷姿改善による輸送効率化 | 東海理化 2,927 t-CO ₂ | 東海理化 2,835 t-CO ₂ | ○ | |
| 自然共生社会の構築 | 生産活動における環境負荷物質の低減 | ● PRTR法対象物質の使用量低減 ● VOCの排出量低減 | — | — | ○ |
| | 製品含有化学物質管理の充実 | ● 化学物質規制の各国動向把握 ● 規制物質を含まない製品への切替え | — | — | ○ |
| | 環境保全・生物多様性保全の推進 | ● 地域と連携した里山、湿地の保全活動 ● オールトヨタ連携活動への参画 | — | — | ○ |
| 自然共生社会構築に資する社会貢献活動の推進 | ● 地域社会と連携した社会貢献・ボランティア活動 | — | — | ○ | |
| 循環型社会の構築 | リサイクルしやすい製品設計と技術開発の推進 | ● 設計見直しによる解体性の向上 ● リサイクル材の活用推進 | — | — | ○ |
| | 生産活動における排出物の低減と資源の有効利用 | ● 生産の歩留り向上 ● 3R(リデュース、リユース、リサイクル)活動の推進 | 東海理化 0.37 t/百万個 | 東海理化 0.31 t/百万個 | ○ |
| | 生産活動における水使用量の低減 | ● 水のリサイクル利用(半導体、めっき工程) ● 水のリスク評価 | — | — | ○ |
| | 物流活動における梱包・包装資材の低減と資源の有効利用 | ● 収容方法見直しによる梱包・包装資材の低減 ● 梱包資材のリユース化 | 東海理化 0.555 t/億円 | 東海理化 0.527 t/億円 | ○ |
| 環境経営 | 連結環境マネジメントの強化推進 | ● 連結環境マネジメントの強化・推進 ● 生産拠点のEMS外部認証取得 | — | — | ○ |
| | ビジネスパートナーと連携した環境活動の推進 | ● 協力会社への環境情報展開 ● 協力会社との現地研鑽活動 | — | — | ○ |
| | グローバル従業員教育・啓発活動の強化 | ● 教育実施による環境キーマン育成 ● 環境月間での啓発活動展開 | — | — | ○ |
| | 各国、各地域の都市大気環境改善 | ● 低公害車の導入拡大 | 東海理化 74.0% | 東海理化 75.0% | ○ |
| 環境情報の積極的開示とコミュニケーションの充実 | ● 東海理化レポート、エコデータファイルの発行 ● 地域懇談会の開催 | — | — | ○ | |